一、傍聽人

1、一般傍聽人　一九名

2、特別〃　四名

3、家族〃　六名

二、一般状況並ニ法廷内ノ状況

1、被告人大川周明ハ本間憲一郎頭山秀三ト分離組被告ハ午前八時四十分押送自動車ニテ市谷刑務所ヨリ構内假監到着セシガ法廷内外ニ於ケル警戒其他從前ノ通リ組シ本日ハ朝来ノ雨天ノミナラズ前回ニ引續キ非公開ヲ豫想サレ居タル事トテ開廷時間迄ニ出頭シタル傍聽者殆ンドナシ

2、午前九時〇五分非公開ノ儘ニテ開廷前回ニ引續キ被告大川周明ニ対スル事實審理ニ入リ三月事件並ニ十月事件ニ関スル審理行ハレタル趣ナルモ関係者、證人ノ[illegible]

外絶対非公開ニシテ其ノ内容ハ一切不明

3. 午前九時三十三分一時休憩トナリ仝十時三十五分再開[illegible]ニ公開セラレ引續キ大川被告ニ対スル訊問續行其ノ終了後本内検事角岡弁護人等ノ間ニ於テ五・一五事件海軍側被告ノ陳述書謄本入手方ニ関シテ少シノ應答アリ午前十時三十分無事閉廷ス

4. 次回ハ来ル十六日午前九時ヨリ本件主犯側被告橘孝三郎以下十七名並ニ仝従犯側被告大川周明以下三名全部併合ノ下ニ開廷証拠調べニ入ル予定

一、公開後ニ於ケル被告大川周明ニ対スル訊問概要

裁判長ハ各傍聴人等着席シ終ルヲ待ツテ「大川」トテ被告ニ起立ヲ促シテ訊問席ニ誘ヒ

オ デハ引續キ訊問スルカ被告ト古賀中尉中村中尉トノ知リ合関係ニ就イテ訊ネタイガ

ヒ　古賀ノ話ニ依リマスト先年私ガ大學ニ居ル時ヤッテ来タ様ナ模様デスガ一寸外ニハッキリシタ記憶ハアリマセン

オ　被告ハ豫審デハ昭和七年一月カラ時ニ会ッテ居タ様ニナッテ居ル様ダガ

ヒ　ソウデス

オ　被告ノ自宅ハ元荏原郡大崎町上大崎二百三十一番地現在デハ品川區上大崎四丁目二百三十一番地ダネ

ヒ　ソウデス

オ　古賀ヤ中村等ト時々會ッテ居タ目的ハ

ヒ　日本主義トカ日本精神等ノ研究ト云フ様ナ意味カラ会ッテ居リマシタ

オ　處ガ昭和七年三月二十七日ニ古賀ガ尋ネテ来タ時ハ中村モ一緒ニ来タカ

ヒ　記憶アリマセン

オ　其ノ時ノ話ノ内容ヲ聞キタイ

ヒ　内容ハ無論ハッキリ記憶致シマセンガ要スルニ軍人等ト一緒ニナッテ国家改造ヲ実現セシメ度イ自分ガ主トナッテヤリ度イト云フ様ナ話デシタ

オ　夫レデ被告ハピストルヲ提供スルコトヲ承諾シタカ

ヒ　ソウデス

オ　其ノ時金ノ問題ハ出ナカッタカ

ヒ　金ノ問題モ出マシタノデ軍資金トシテ出スコトヲ承約束シマシタ

オ　ソウシテ昭和七年四月三日ニ拳銃ト金ヲ渡スカラ尋ネテ来イト云フコトヲ云ッタンダネ

ヒ　ソウデス

オ　デハ此ノ時古賀ガ云ッタ話ハ要スルニ暴力ニ因ッテ

ヒ　破壊行動ヲヤッテ国家改造ノ烽火ヲ挙ゲルト云フ意味ダネ

ヒ　ソウデス

オ　ソコデ昭和七年四月三日ニ古賀ガ来タネ

ヒ　ソウデス

オ　其ノ時被告ハ古賀ニ拳銃五挺弾丸百二十五発現金一千五百円ヲ渡シタコトハ間違ヒ無イネ

ヒ　間違ヒアリマセン

オ　拳銃ノ種類ハ

ヒ　四ツハ全型デシタガ一ツハ違ヒマシタ

オ　デハ其ノ拳銃ノ入手ハドウシテ

ヒ　昭和四年ノ春カラ持ッテ居リマシタ

オ　デハ頼マレタカラ調達シタノデハナイネ

ヒ　勿論ソウデス頼マレタカラト云ッテ急ニ求メ様トシタ訳

デソウ急場ノ間ニ合フモノデハアリマセンヨ

昭和七年四月二十九日被告ハ自宅デ古賀中尉ニ二千円ヲ渡シタコトガアルネ

ヒ　私ハ記憶アリマセン古賀ハソウ云ッテ居ル様デスカ私ニハ思ヒ出マセン

オ　デハ昭和七年五月十三日被告ハ自宅デ古賀ノ手紙ヲ持ッテ来タ黒岩ニ現金二千五百円ヲ渡シタネ

ヒ　渡シマシタ

オ　黒岩トハ元カラ知ッテ居タカ

ヒ　知リマセンデシタ　初メテデシタ

オ　古賀ハ現金六千円ト云ッテ居ルシ被告ハ現金四千円ト云フガ兎ニ角其ノ金ハ被告カラ出タノダネ

ヒ　ソウデス

オ　デハ其ノ金ハ運動ノ為メニ他ニ提供者ガアッタノカ夫レ

トモ被告ノ手許ニ在ッタ自分ノ金カ

ヒ　他ニ出シテ呉レル人ハアリマセンシ私ノ手許ニ在ッタ自分
ノ金デアッタ

オ　デハ古賀ニ渡シタ拳銃ハ古賀ガ陸海軍ノ一部ノ若
手将校ヤ農民側ト一緒ニナッテ暴力ニ使用スルモノト
思ッテ渡シタコトハ間違ヒ無イネ

ヒ　間違ヒアリマセン

オ　現金モ其ノ費用トシテ渡シタコトハ間違ヒ無イネ

ヒ　間違ヒアリマセン

オ　デハ古賀中尉等ハ爆弾ヲ使用スルコトハ聞カナカッタカ

ヒ　別ニ聞キマセンデシタガ尤モ三月以来爆弾ヤ拳銃ノ
話ハ耳ニ蛸ノ出来ル程聞イテ居リマスカラ聞カナクテ
モ使用スルダロウト想像シマシタ

オ　デハ古賀達ノ襲撃決行ニ就テノ時季ハ

ヒ　マゴマゴシテ居ルト捕マッテ終ウカラ臨時議会開会ノ前
ニヤロウト云フコトハ聞イタコトガアリマシタ

オ　デハ破壊行動トハドンナコトヲスルダロウト思ッテ居タカ

ヒ　農民達ヲ動員シテ相当暴レルダロウト思ッテ居リマ
シタ

オ　デハ政界財界特権階級等ノ巨頭達ヲ暗殺サレ
ルトハ思ッテ居タカ

ヒ　判ッテ居リマシタソシテ破壊行動ニ依リ東京ガ相当
混乱状態ニ陥ルダロウト云フコトモ想像シテ居リマシタ

オ　古賀達ガ襲撃ノ結果ハ内閣ドウナルト想像シテ居
タカ

ヒ　ソウ大シタコトハ出来ヌト思ッテ居リマシタカラ夫レ程期
待ハ掛ケテ居リマセンデシタ夫レハ古賀自身モソウ云
ッテ居タ程デシタカラ

オ　被告ハ首謀者ノ一人トナッテ古賀達ト共ニ[illegible]
屠ヲヤル意思デ拳銃ヤ金ヲ渡シタノカ

ヒ　ソンナ意思ハアリマセンデシタガ古賀ハ死ンデモ迷惑ハ
掛ケヌト云ッタカラ援助スル考ヘデ渡シマシタ

オ　デハ十五日事件ニ古賀中村黒岩ガ参加スルコトハ
知ッテ居タネ

ヒ　知ッテ居リマシタ

オ　三上山岸ガ参加スルコトハ

ヒ　知リマセンデシタ

オ　デハ陸軍デハ

ヒ　十一名ダト聞イテ居リマシタ

オ　農民ハ愛郷塾生ダト思ッテ居タカ

ヒ　愛郷塾ノ名前モ知リマセンデシタ

オ　デハ日召ノ残党ト云ハレテ居ル照沼黒沢川崎ノ

ヒ 等カ参加スルコトハ

オ 知リマセンデシタ

ヒ デハ襲撃目標ハ首相官邸内大臣官邸警視庁政党本部三菱銀行等ダトイフコトハ

オ 知リマセンデシタ

ヒ 西田税暗殺ノコトハ判ッテ居タカ

オ 判リマセンデシタ

ヒ デハ襲撃ノ結果殺傷行為カ行ハレルカモ知レヌトイフコトハ思ッテ居タネ

オ ソウデス

ヒ 夫レデハ十五日ニ予審終結決定書ニ書イテアル様ナ事件カアッタトイフコトハ認メテヨイネ

オ ソウデス

デハ是レテ事実審理ヲ終ルカ尚現在ノ考ヘヤ

何カ他ニ述ベタイコトカアレハ聞カウ

ヒ　何モ述ベルコトハアリマセンガ私ハ当時モ現在モ同[illegible]
ト思ツテ信ジテヤツタコトデシテ凡テノコトハ政[illegible]
ガリ特权階級ニ相当ナ打撃ヲ与ヘタコトヲ信ジ[illegible]
リマス法律ノ制裁ヲ受ケルコトハ勿論デスカ今日
デモ尚其ノ動機カ正シカツタコト結果カ御國ノタ
メニナツテ居ルト云フコトハ信ジテ疑ヒマセン

文　デハ掛ケテ

文　弁護人ノ方ニ申上ゲテ置キマスカ十六日午前九
時カラ証拠調ベヲヤロウト思ヒマス他ノ十七名ト
共ニダカラ証人申請等カアリマスレバ十六日迄
ニ書面デ裁判所ノ方迄御出シヲ願ヒマス

弁　承知致シマシタ

[illegible]　下一寸御願カアリマスカ其ノ書面ヲ御出シニナル時

ニハ私ノ方ニモ一部御願致テ置キマス

弁護人　一寸御願致シ度イコトカアリマスカ海軍ノ方ノ被告ノ陳述書ヲ謄本テモ宜敷ウ御座イマスカ一部頂ケナイデセヨウカ

オ　一部テモ他ニハ出サヌ相ダカラドウニモ仕方アリマセン

弁　實ハ本間カラ交附シタ拳銃ハ現實ニ使用サレテハ居ラヌ様デアリマスルシ夫レカハッキリ判レハ本間被告ノ為メニモ非常ニ利益ダト思ヒマスカラ

一一　夫レハ私ノ方ニモ判ッテ居リマスカ明瞭ニナッテハ居ナイ様テスネ

本件検了

右ヲ以テ本日ノ公判ヲ終了閉廷トナリシカ是レニテ今商被告三名ニ対スル事實審理ハ終了ス

巨文申（通）彼英也

二一回

寫

特高秘第五六三四號

昭和八年十一月十六日

警視總監 藤沼庄平

内務大臣 山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五一五事件民間側公判狀況ノ件（第二十一報）

本日東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第二十一回公判（証拠調）狀況左記ノ通リ

記

一、日時 十一月十六日 自午前九時 至午后二時三十分

一、場所 前回ニ仝

一、裁判長以下係判検事仝

警保局 8.11.25土 保

一、被告　二十名（橋本欣五郎外十六名及大川、頭山、本間）
一、弁護人　（本日出席者）
深作貞治　石川浅　星野武治　森田重次郎　藤沼光
柏木五百次郎　池田謙次郎　横田亥之吉　亀山要　前川盈一郎
若井孝太郎　花井忠　宮下巌　鈴木多人　関口正吉
遠藤栄三郎　沼田照藏　谷口守藏　関山八郎　林逸郎
杉浦武雄　栗田弘　岩松孝雄　横田隼雄　宇都宮良久
栗原宰之助　森半之助　山口興八郎　（以上二十八名）
一、傍聴人
特別傍聴人　五名
一般〃　二九名
家族近親者　九名
一、一般状況
警戒状況従前ノ通リニシテ何等事故無シ

六、公判状況

1、出廷被告前記ノ如ク民間側全部ニシテ開廷劈頭裁判長ハ併合審理ヲ行フ旨ヲ言渡ス

2、裁判長ハ被告等ノ使用シタル拳銃、手榴弾等ニ付廷丁ヲシテ一々確メサセタルニ本間憲一郎ハ「私ノ渡シタブローニングハモウ少シ大キカツタト思フ」ト述ベ大川周明ハ「克ク判リマセン」ト述ベタル以外他ノ被告ハ全部明瞭ニ承認シタリ

3、証拠物件ヲ終リ各被告人ノ訊問調書及陸海軍側井上日召等ノ調書等ノ朗読ニ付テハ裁判長ハ之ヲ簡略ニシタリ

4、以上ノ通リ証拠調ヲ終リ弁護人側ノ証人申請ニ移ル

5、亀山弁護士ハ橘孝三郎外十六名ノ被告ノ為メト述ベ

風見章　古賀清志　中村義雄　山岸宏

渡辺傳　松下時恵　市橋義一　近藤友吉
大井一哲　中野正剛　徳富猪一郎　長野朗
和合恒男　福村隆一　中沢弁次郎　小島精一
松岡洋右　本田熊太郎　田中光顕　末次信正
加藤寛治
以上二十二名ノ申請ヲ為シタリ
6. 申請理由ニ付今弁護士ハ
(イ)風見章ニ付テハ私ガ申上ル迄モナク御取調ベノ必要
ガアルト述べ
(ロ)古賀、中村、山岸ノ海軍側ノ三被告ニ付テハ建設主
義ノ橘氏等ガ本件ニ関与スルニ至ッタ経緯ト襲
撃内容ノ事實関係並川崎長光ノ関係ニ付是非
共必要ナル人物デアル今氏等ハ本日小菅刑務所ニ
移監サレタ筈デアルト説キ

(ロ)渡辺、松下、市橋、岡田、近藤ノ五名ハ當日ノ發電所ノ宿直員デ被告等ハ電氣智識不足ノ為メ實害ハナカツタモノト聞クガ之ニ付必要ナル人物デアルト述ベ

(ニ)大井一哲、中野正剛、徳富蘇峰ニ付テハ大井一哲ハ既成政党ノ腐敗堕落ニ因ル政治上ニ又農村ノ窮乏ニ付其ノ實際ヲ知ル人ニシテ中野正剛氏ニハ政党ノ内部ヨリ見タル腐敗堕落ノ實状ヲ徳富氏ハ公平ナル立場ヨリ見ル政党觀ヲ大井中野氏ガ許サナイナラバ徳富氏丈ハ是非共御許シナ願ヒタイト述ベ

ク次ニ森田弁護士ハ替リテ

(ホ)私ハ長野朗、和合恒男、稲村隆一、中沢弁次郎、小島精一ノ五名ヲ必要性ニ付テ

長野朗ハ茨城縣ノ農民窮乏状態ニ付 和合氏ハ長野縣ノ農村状態ニ付稲村氏ハ新潟縣ノ農村状況ニ

付三縣下ノ窮迫セル農村ノ實状ヲ知ル必要上
(ヘ)中沢弁次郎氏ハ學究的ナ立場ヨリ人口関係ニ並ニ租税関係ヲ通ジ現代日本ノ社會機構ト農村ト都市ニ付究明セシムル為メニ
(ト)小島精一氏ハ現代ノ國際資本主義経済下ニ於ケル経済ブロツクノ對立並我國ノ國際的地位ニ付テ知ル必要ガアルト述ベ更ニ本件ハ非常ナル特殊性ガアル裁判長ハ高イ程度ノ常識ガアルト雖モ全般ニ通ズルコトハ難シイト思フ故ニ之等ノ人ヲ証人トシテ其ノ意見ヲ叩ク必要性ガアル本件ハ今迄ハ順調ニ進ンデ来タガ未ダ半分ニモ達シナイ過去ノ歴史ヲ観ルニ時代的ニハ現實性ガアルト思フガ断罪ニ処セラレタモノガ后ニ神ニ祭ラレルト云フノガ多イ今ヤ文化的ニ科學的ニ進歩シタル今日本件裁判ニ付テハ裁判長、檢察官、弁

護人共一致シテ悔ヲ將来ニ遺サヌ様努メネバナラン
ト論ジ

(ホ)更ニ花井弁護人ハ語リ

(ヘ)松岡洋右本田熊太郎両氏ニ付テ

外交ノ行詰リハ本件ニ関スル重要ナ問題デアリ本田
熊太郎氏ニハ綜合的ナ外交関係ニ付テ意見ヲ聞ク必
要ガアリ松岡氏ニハ満洲事変、上海事変ノ国際政
局ニ及ボシタル影響国際聯盟ヲ脱退シタル當時代表ノ
意見並策動等ニ付御高説ヲ拝聴スル必要性ガア
ルト述ベ

(リ)更ニ私ハ押収ニ係ル手榴弾ノ鑑定ヲ申請シマス所迄
爆破ノ程度、作製ノ年代等聞タ処デヨルト日露戦争ノ當
時ニ作ラレタモノデアルト鑑定人ハ海軍技術家
横須賀海軍航空廠化學部長或ハ兵器部長

シ御願ヒマスト述ヘ

又次ニ石川弁護士ハ

(ヌ)加藤寛治、末次信正ノ両将軍ニ付テ

海軍軍令部長ノ上奏文並奉答文、帷奏文等ニ依ル証ナ

リト述ヘ

又宮下弁護共被告池松武志ノ為メニ

(ル)歩兵少佐中村次喜三、歩兵少尉中村雅郎、砲兵少尉

上宇都某、房内常成ノ四名ヲ証人トシテ申請シマスト述

ヘ

(ヲ)中村少佐ハ池松ノ士官学校時代ニ於ケル中隊長デアリ池

松ノ退校理由ハ左傾思想ト云ハレテ居ルガ決シテサウデハ

ナイト思フ其ノ点ヲ確メル必要上

(ワ)中村少尉ハ全期生トシテ

(カ)上宇都少尉ハ全期カ一期先デ

(ヨ)房内氏ハ中學時代ノ先輩トシテ必要アルコト述ベ尚國体論
ニ付テ相當ノ權威者シオ許シアラバ氏名ヲ発表スルト述
ベ

11、深作弁護士ハ

(タ)田中前宮内大臣、徳富蘇峰ニ付テ

法律ハ國家保全ノ為メノモノデアルガ國家保全ノ為メニ協力
居キテ決行シタ被告等ハ氏ノ法律デ罰セラレルノデアル
ガ史ニ於テ過去ノ國士ハ神様トシテ祭ラレテ居ル田中氏
ハ明治ノ革命ヲヤッタ人デアリ本件ヲ如何ニ視ルカニ付
テ徳富翁ト共ニ是非共オ許シガ願ヒタイト述ベ

12 杉浦弁護士ハ

(レ)京大教授黒正巌並本庄菊次郎ノ両氏ヲ申請シマス
ト述ベ

13、江川弁護士ハ

(ツ)陸海軍々法會議ノ記録ノ取寄ヲオ願シタイト申出
デ
14.亀山弁護士ハセメテ古賀、中村、山岸ノ分丈ハ是非共御取
寄セ願ヒタイト述ベ
15.宮下弁護士ハ池松ノ為メニ田中智學池岡直孝ノ二名ヲオ
願シタイト述ベ
16.宇都宮弁護士ハ古賀清志丈ハ是非オ願ヒシタイト補足シ
17.裁判長ハ頭山、本間ノ関係弁護士ニ発言ヲ促セバ林逸郎
弁護士ハ頭山ノ方ハ書面ニ届キテ居リマスルト述ベ本間
ノ方ハ本人ノ意志ニヨリ何モナイト答ヘ
18.石川弁護士ハ本朝電話デ照會シタルニ古賀等ハ本朝
小菅刑務所ヘ移サレタト聞クニ付是非共オ許シ願ヒタイ
ト述ベ
19.検事ノ論告

裁判長ハ検事ノ意見ヲ質セバ
木内検事ハ起チテ
「証拠申請中風見章ヲ除ク其ノ他ノ申請ハ必要ハナイト思
フ証人ニ付テハ橋本幸三郎ガ當公判廷ニ於テ詳シク述ベテ
居ルカラ大体ノ判断ハ得ラレルト思フ変電所ニ付テモ被
告人ノ陳述、関係者ノ豫審調書デ明瞭デアル手榴弾
ノ鑑定ニ付テハ大審院ノ判令ニ依リ明瞭デアリ使用方法
等ハ関係ハナイ記録取寄ニ付テモ本件記録ニ依リ推察
出来ル」ト簡単ニ一蹴シ
20 亀山弁護士ハ起チテ「只今風見章以外ハ全部不必要ダ
ト云ハレタガ餘リニ情ナイオ言葉ダト思フ本件ハ日本開闢
以来ノ大事件デアルト考ヘテ居ル裁判長ニハ御同情アル御
取調ヲ受ケ被告並弁護人等モ感泣シテ居ルノデアルニモ
拘ラズ検察官ノオ言葉ハ實ニ私ハ何トモ申上様モナイ

正々堂々ト公明正大ナル裁判ガ望マレイ」ト論ジ深作弁護士ノ動議ニ依リ裁判長ハ休憩ヲ宣ス時ニ午前十一時

21 午後一時再開裁判長ハ弁護士ノ発言ヲ促セバ

22、花井弁護士ハ「風見章以外ハ反對ノ御論告ヲ拜聴シタコトハ誠ニ遺憾ニ思フ若シ本件ニ於テ誠ニ妥当ナリト云フ御論告ヲ頂キマスナラバ吾々ハ敢テ何ヲヤ云ハンヤデアルガ當テ某裁判ニ於テ某検察官ノ態度ヲ見タコトガアル千榴彈ノ鑑定ニ付テモ若シ不発ニ終ルモノトスレバ不能犯ト為ルモノデアリ刑ノ量定ニモ非常ナル関係ガアルト論ジ

23 次ニ前川弁護士ハ「検事ノ大審院判令ノ引用ヲ軽卒ナリト攻撃シ爆発物ノ定義ヲ説明シ本件ニハ無理ナ法律デアルト論ジ徳富蘇峯翁ヲシテ國家重シヤ國法重キカニ付テ訊シタイト弁ジ

24 次ニ杉浦弁護士ハ「普通ノ犯罪ハ消極的デアルガ本件ハ

積極性デアル此ノ判断ハ國際的ニ将又日本ノ将来ニ至大ナル関係ヲ持ツ我々ノ最大限度ノ申請ニ検事ハ[illegible]然トシテ簡單ニ片附ケラルルハ弁護人ノ遺憾ニ堪ヘナイ処デアリ冷静ナル裁判長ノ明断ヲ俟ツ」ト論ジ

25 星野弁護士ハ「検事ノ論告ハ大体ノ判断ガツイタト云ハレタガ大体ノ判断デヤラレテハ八千万ノ國民ガ泣キ五千万ノ[illegible]民ガ泣ク」ト論發シ

26 次ニ沼田弁護士ハ本間被告ノ生立ヨリ軍事探偵トシテノ功績ヲ述ベタゴール翁トノ関係ヲ説明シ當時ノ新聞紙等ヲ提出ス

27 森田弁護士ハ「吾々ノ希望ハ検察官ニ依リ一蹴セラレタガ緊迫セル我國ノ客観的状勢ニ於テ大和民族ガ打ッテ一丸トシテ當ラナケレバナラント云フ第一歩ヲ即シタモノガ本件デアル此処ニ於テ吾々ノ申請ガ却下セラルルトセバ将来ニ拭フベカラザル

汚点ヲ遺スモノト思フ或裁判ノ如キ敏腕家ナリトノ聞ヘ高ク
裁判長ガ旧式ナル裁判ヲシタ結果非常ナル混乱ニ陥ツタト云
フコトモ聞ク又或方面ノ非常ナル権力ヲ押シ除ケ敢然トシテ
裁判長独自ノ立場ニ於テ判決シ案外スラスラト終了シタ裁判
モアルト聞ク何卒公正ナル裁判ヲオ願スルト論ジ
28 藤沼弁護士ハ更ニ古賀清志ノ必要性ヲ述ベ
29 次ニ沼田弁護士ハ「私ハ現在ノ公判ニハ不満デアル夫レハ物質的
デアリ理智的デアリ科学的デアルカラデアル日本人ハ魂ノ判ラ
ヌ人ニハ裁判ハ受ケナイト云ハレタガ全般ニ付テ克ク御考ヘヲ願
ヒタイ」ト論ジ
30 深作弁護士ハ「之デ打切リタイト思フガ爆発物ハ日露戦争前
ニ製造シタ三十年以上モ経過シテ居ルモノト聞ク何卒国家ノ
為メニ御許シヲ願ヒタイ」ト結ビ
31 裁判長ハ十五分間ノ休憩ヲ宣ス時ニ午后一時五十分

32 午后二時五分再開劈頭
裁判長ハ「決定シマス」ト冒頭シ
風見章 和合恒男 上宇都少尉 渡辺傳 松下時恵 市
橋義一 岡田松一 近藤友治
之丈ハ許シマス
古賀清志、中村義雄 山岸宏
以上三名ハ留保シテ置キマス
其他ノ証人ハ全部却下シマス 記録取寄鑑定モ却下シマス
風見、渡辺、松下、市橋、岡田、近藤ハ来ル本月十八日午前九
時ヨリ訊問シマス
和合上宇都ハ今二十一日午前九時ヨリ
古賀中村山岸ハ訊問ガ出来ル様ナ状態ニナッタナラバ其
ノ時相談シマスト言渡シヲ為シタリ
33 亀岡弁護士ハ直チニ起チテ「已ムニ已マレズ弁護人ヲ代表シテ

再申請致シマス
古賀、中村、山岸ハ留保ト云ハレタガ古賀丈ハ是非共尚徳富蘇峯ト手榴弾ノ鑑定トハ是非共オ許シ願ヒタイト述べ

34. 深作弁護士起チテ又今様ノ主旨ヲ述べ

35. 裁判長ハ検事ノ意見ヲ訊セバ木内検事ハ起チテ「前今様ノ主旨ニ於テ必要ナシト認メマス」ト反対ノ意見ヲ吐キ裁判長ハ合議シマスト陪席判事等ト后方ノ別室ニ入リ僅カニ二分間ニシテ出廷シ「必要ナシト認メ却下シマス」ト言渡シ直チニ閉廷時ニ午后二時三十分以上ノ如ク検事ト弁護士側トノ間ニ論駁アリ一時相當緊張ノ場面ヲ呈シタリ
追而次回ハ来ル本月十八日午前九時ヨリ開廷ノ筈

右及申（通）報候也

特高秘第五七四八號
昭和八年十一月十八日
警視總監藤沼庄平
内務大臣山本達雄殿
各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側公判状況ニ關スル件（第二十二報）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第二十二回公判ハ本日午前九時八分開廷午後三時三十五分閉廷セルガ其ノ状況左記ノ如クニシテ何等事故無之

記

（1）

二二四

一日時　十一月十八日　自午前九時八分　至午後三時三十五分

一場所　前報仝断

一係判検事　仝　但シ木内主任検事欠席

一被告人　主犯橋孝三郎以下十七名並ニ従犯大川周明以下三名計二十名

一弁護人（本日出席者）

池田穂太郎　花井忠　星野民藏　岩井孝太郎
亀山要　柏木五百次郎　金石一夫　植田亥之吉
宇都宮良久　栗原寧之助　山本唯次　前川盛一郎
深作貞治　藤沼光　江橋活郎　遠藤榮三郎
木村半之助　木下好太郎　角岡知良　以上十九名

一傍聴人

イ一般傍聴人　四七名

ロ特別　仝　一一名

3 家族　仝　三名

一、特別傍聴人中知名ノ人士ナシ

一 法廷内ノ状況

1、午前八時四十分橘孝三郎以下被告二十名構内假監到着、内外ノ警戒従前ノ通リ

2、午前八時五十五分頃ヨリ各弁護人相前シテ入廷仝九時二分裁判長以下入廷仝五分ヨリ各被告ニ引續キ各傍聴人入廷着席ス

3 各被告ノ服装並ニ速記ヲ許セルコト、メモ鉛筆ヲ手交スルコト従前ノ通リ

4、午前九時八分開廷ト共ニ裁判長ハ前回ノ公判ニ於テ留保トナリ居タル海軍側被告古賀中村山岸三被告ヲ證人トシテ申請ノ件ニ對シテハ「古賀清」ノミヲ採用シ来ル本月二十日午後一時ヨ

2

小菅刑務所ニ於テ訊問スベキコトヲ告ゲ他ノ
二名ハ何レモ却下シ宣ス
右ニ對シ亀山弁護士ヨリ橋被告丈ケデモ立合ヒ
シ御願シタキ旨申請セシモ容認サレズ直チニ
呼出中ノ被襲撃各変電所従業員ノ証人訊問
ニ入ル
6 最初ニ東電淀橋変電所従業員渡辺傳、次イ
テ仝亀戸変電所従業員松下時恵仝シク田端
変電所従業員市橋義一仝尾久変電所従業員
岡田松一ノ四名ニ對シ證人調ベシ終了シ午前九
時五十五分一時休憩トナル
而シテ午前十時十分再開豫定ナリシモ呼出中
ナリシ証人不参ニ付引續キ休憩午後一時五分再
開サル

直チニ東電鳩ケ谷変電所従業員近藤友治ノ
証人調ヘニ入リ終レバ引續キ国民同盟所属代
議士風見章ニ對スル証人調ベニ入リ今証人ハ
弁中被告席ニ在リタル小室力也脳貧血症状
呈シ退廷スル等ノ事資アリ後ニ亀山、栢木稲川
前川花井、星野池田ノ各弁護人ヨリ質問應答
アリテ午後三時三十五分無事閉廷トナル次
回ハ十一月二十一日午前九時ヨリ引續キ証人
喚問ノ豫定

、公判ノ状況（証人調ベノ概要）

裁 弁護人席ニ向ヒ有賀清志ヲ十一月二十日
午後一時カラ小菅刑務所ニ於テ訊問致シ
マス尚中村義雄山岸宏ハ何レモ却下致シマス

亀山弁護人 夫レニ就イテ一寸御願ガアリマスガ橘

孝三郎丈デモ立會ヲ御許シ願ヒ度イト思ヒ
マスガ
裁　夫レハ一寸工合ガ悪イ御座イマスカラドウカ左様
御承知ヲ願ヒ度ヒト思ヒマス
裁　證人渡辺傳ト呼ベハ廷丁ハ仝證人ヲ誘導
シ来リテ證人席ニ起タシメ
裁　證人ハ名前ハ
證　渡辺傳ト申シマス
裁　歳ハ
證　三十四歳テアリマス
裁　職業ハ
證　東電淀橋変電所従業員テアリマス
裁　住所ハ
證　東京市淀橋區淀橋町五百八十四番テアリマス

裁　證人ハ橘孝三郎外十九名ニ對スル爆発物取締罰則違反、殺人及殺人未遂被告事件ニ付證人トシテ證言ヲ求メルカ被告等トハ親族關係ハアリマセンカ

證　アリマセン

裁　デハ同居關係ハアリマセンカ

證　アリマセン

裁　雇人關係等ハアリマセンカ

證　アリマセン

裁　デハ宣誓ノ上證言ヲ求メマス　トテ全員起立裡ニ裁判長ハ宣誓書ヲ讀ミ聞カセ共々ニ署名捺印セシメテ提出セシメ愈々證人調ベニ入ル。

裁　デハ貴下カラ訊ネルガ貴下ハ昭和七年五月十五日ニモ矢張リ淀橋変電所ノ方ニ勤務シテ居

リマシタカ

證　左様デ御座イマス

裁　十五日ノ晩ハ當直デシタカ

證　當直デハアリマセンデシタ

裁　其ノ晩ハ居リマシタカ

證　近所タカラ社宅ニナッテ居リマスカラ

裁　デハ十五日晩ノ襲撃サレタ模様ハドンナ風デシタ。

證　突然大キナ音ガシタノデ何カアッタナート思ッテ出テ見マシタラ冷却塔ノ北側ノ上部カラ二三尺ノ處ニ穴ガ明イテ居リマシタ

裁　夫レハ何ノ為メノ塔デスカ

（以下次葉）

証　是レハ電動機ヲ冷却スル為メノモノデス

裁　飲料水用デハアリマセンカ！

証　ソウデハアリマセン機械ノ方デス

裁　其他ノ場所ニ故障ハアリマセンデシタカ！

証　飲料水及上ノモーターノ線ヲ一本切ラレテ居リマシタ

裁　其ノ外ニハ！

証　其ノ外ニハアリマセンデシタ

裁　デハ淀橋変電所ノ配電区域ハ！

証　区域ト申シマシテモ其ノ日其ノ日ニ依ツテ違ヒマスガ主トシテ淀橋カラ新宿、左門町方面カラ日本橋、京橋方面デ御座イマス

裁　故障ガ起レバ夫レ等ノ区域ニ配電ガ出来ナクナリマスカ！

証　一時ハ配電出来ナクナリマス

裁　デハ破壊サレタラ直グ復電シマスカドウデスカ！
証　直グ復電シマセン　約三十分間位大丈夫デス
裁　デハ十五日ニハ事実上ノ損害ハ蒙ラナカツタノデスネ
証　ソウデ御座イマス
裁　弁護人デ何カ御質問ハアリマセンカ！　ト弁護人
側ニ注意スレバ亀山弁護人起ツテ証人ニ向ヒ
亀　是レハ見廻リハ致シマセンカ！
証　二時間置キニ見廻リマス
亀　ソシテ異状ガアレバ直スノデスカ！
証　ソウデス
次デ深作弁護人起ツテ証人ニ向ヒ
深　変電所ハ一杯一杯電力ヲ出ス事ハ無イノデセウ！
証　ソウデス
深　当時ハドノ位出テ居リマシタ！

証　十万キロノ処ヲ約半分位デシテ当時ハ三万八千キロ位デシタ

深　其ノ時毀レタトシタラドノ位ノ損害デシター！

証　ポンプハ破壊サレテモ一寸モ止リマセンカラー！

深　ソレデハポンプハ破壊サレテモ止マラヌト云フ結論ニナリマスネー！

証　ソウデス

深　デハヨウ御座イマス

裁　夫レデハ終リマシタ御帰リニナツテモ宜敷御座イマス御苦労デシタ

右ヲ以テ証人渡辺傳ノ証人調ベヲ終レバ裁判長ハ引續キ直チニ証人「松下時恵」ヲ呼出シ廷丁ヲシテ証人席ニ誘導セシメテ氏名、年令、職業、住所並ニ被告等ト親族関係同居乃至雇人関係ノ有無ニ就キ確ムル事前証人ニ於ケ

ル如ク尚証人トシテ喚問ノ理由又宣誓書ヲ聖取スルコト
前公様ニシテ訊問ニ入ル

裁　デハ間違ノ無イ様ニ答ヘテ頂キ度イガ証人ハ東電亀
戸変電所ニ勤メテ居リマスネ！

松　左様デ御座イマス

裁　五月十五日ニモ公ジク勤メテ居リマシタカ！

松　ソウデスガ当日ハ非番デシタカラ居リマセンデシタ

裁　デハ十五日ニ亀戸変電所ヲ襲撃サレタ時ノ事情ハ
知ツテ居リマスカ！

松　知ツテ居リマス後デ聞キマシタガ九時ニ見廻リマシ
タラポンプ室ノスイッチガ切レテ居マシタノデ各機械
ノ汲水ノ水ガ絶タレマシタノデ直チニ總動員シテ水揚
ゲ致シマシタ、ソシテ直チニ小松川署ヘ電話デ急報致シ
マシタラ署ノ方ガ来テ下サイマシテ調ベテ頂キマシ

タラポンプ室ノ裏手ニ鳥打帽子ガアリマシタ夫レカラ翌日ハ油室ノ前デ手榴弾ガ落チテ居ルノヲ発見シ次ノ日ニハ白鞘ノ短刀ト玄能ガポンプ室ノ前ニ落チテ居タノヲ発見致シマシタ

裁　スイッチガ破壊サレテ居タノデハナカッタノデスカ！

松　破壊サレテ居タノデハアリマセン切ッテアッタ丈ケデシタ

裁　デハ配電ニ支障ハ無カッタノデスカ！

松　全然アリマセンデシタアノ侭デモ半日位ハ大丈夫ダト思ヒマス

裁　何時モ見廻リマスカ！

松　二時間置キニ見廻リマス

裁　デハ襲撃ニ因ッテ実害ハ無カッタノデスネ！

松　実害ハアリマセンデシタ

裁　配電区域ハトノ方面デス！

2ノ三

松　江戸川カラ柳島、曳舟方面デ時ニハ市川方面デアリマス

裁　手榴弾ハ爆発シテ居マシタカ！

松　爆発シテ居リマセンデシタ

裁　弁護人ノ方何カ御質問ハ－！

深作弁護人　先程ノ質問ト仝様デスガ一杯出セバ何キロ位出マスカ－！

松　十万キロ位デス

深　普段ハドノ位デスカ－！

松　三万五千キロ位デスガアノ時ハ三万キロデシタ

深　デハ半日位ハ其ノ位デ大丈夫ト云フノハ十万キロ全部出シテノ話デスカ－！

松　ソウデハアリマセン三万キロノ場合ノ話デス

裁　デハ宜敷ウ御座イマス御苦労デシタ

右ニテ証人松下時恵ニ対スル証人調べハ終リ引續キ田端

変電所従業員市橋義一ノ証人調ベニ移ル住所職業氏名年令、被告等トノ関係ノ有無ヲ確メ宣誓セシムル事

前ト仝

裁　デハ間違ノ無イ様答弁ヲ願ヒ度イ貴下ハ東電田端変電所ノ従業員デスネー！

市　ソウデ御座イマス

裁　昭和七年五月十五日ニモ矢張リ田端変電所ニ勤メテ居リマシタネ

市　ソウデ御座イマスガ私ハ晝間丈ケデシタカラ晝間ハ居リマシタガ其ノ当時ハ自宅ニ居リマシタ

裁　デハ後カラ行ッタノデスカ！

市　ハイ電話ガ掛ッテ来マシテ電流機ヤ汲水器ポンプノスイッチヲ切ラレタト云フ事デシタノデ直グニ行ッテ見マシタラ電流計ノ硝子ガ毀サレ、二号三号ノポンプモ毀

サレスイッチモ毀サレテ居リマシタソシテモーターハ三ツノ内ニツノスイッチガ切ラレテ止ッテ居リマシタ

裁　夫レニ因ッテ配電ニ支障ハ無カッタノデスカー！

市　別ニ支障ハアリマセンデシタ

裁　ポンプガ止ッテカラ又送電点ニハドノ位ノ時間ヲ要スルノデスカー！

市　四十分位アレバ大丈夫デス

裁　当日ハ何キロ位出テ居リマシタ！

市　三万キロ位ダト思ヒマスガ一杯出セバ四万八千キロデス

裁　其ノ附近ニ手榴弾ハ無カッタノデスカー！

市　探シテ見マシタガ判リマセンデシタ

裁　デハ要スルニ配電ニハ何等ノ故障モ起ラナカッタノデスネー！

市　ソウデ御座イマス

裁　見廻リハ何時間置キデスカー！

市　一時間置キニ見廻リマス
オ　デハ配電區域ハ
市　浅草下谷本郷一部大体ソウ云フ區域デアリマス
此時又亀山弁護人起ツテ証人ニ向ヒ
亀　貴下ノ処ノ変電所ハ他ノ変電所ノ補給ニナツテ居リマスカ
市　補給ト云フ譯デハアリマセンガ一補給ト申シマストドウ云フ意味デセウカ
亀　ツマリ他ノ変電所カラ電流ヲ送ツテ貰ツテ居ルノデハアリマセンカ
市　ソウデハアリマセン
亀　此ノ前豫審デハソウ云フ風ニ聞イテ居ル様デスカ
市　ソウデハアリマセン他ノ変電所ト全様デス変電所ニハ一次変電所ト二次変電所トカアリマスカ私ノ方ノハ一ノノ

一次変電所デアリマシテ市内ノ小サイ変電所ハ二次変電所ト申シマス今度ノ事件ニ引掛ッタ変電所ハ何処モ同ジ性質ノモノデス猪苗代湖ノ方カラ水ヲ引イテ居リマスカ

亀　夫レデハヨウ御座イマス

亀山辯護人復席スレバ更ニ前川辯護人起ッテ証人ニ向ヒ

前　一寸尋ネマスカ一ツノ変電所ニ故障ノ起ッタ場合ニハ他ノ変電所カラ電力ヲ補給スル事ガ出来得ルモノナリヤ否ヤ専問的ナ事柄デスガ一寸オ尋ネ致シマス

市　其ノ場合ニハ二次変電所ノ方カラ補給スル様ニ連絡ハ着イテ居ル筈デスガハッキリシタ事ハ申サレマセン

オ　デハ終リマシタ御苦労様デシタ御帰リニナッテ宜敷ウ御座イマス

以上ニテ市橋義一ニ對スル証人調べヲ終了シ裁判長ハ
引續キ直チニ東電尾久変電所従業員岡田松一ニ對
シ仝様証人調べニ移ル冒頭ニ於ケル訊問要領前ニ同
仝様ニシテ續イテ問題ノ重点ニ入ル

オ　間違ヒノ無イ処ヲ答弁シテ頂キ度イ貴下ハ東電尾久
　　変電所ニ勤メテ居リマスネ

岡　ソウデ御座イマス

オ　昭和七年五月十五日ニモ仝所ニ勤メテ居リマシタカ

岡　ソウデ御座イマス

オ　十五日ニ変電所ヲ襲撃サレタ當時ハ変電所ニ居リマ
　　シタカ

岡　居リマシタ

オ　デハ其ノ時ノ模様ハ

岡　午後七時二十五分頃尾久署ノ方カラ警官ガ二名来ヲ

レテ「モーターヲ暴漢ニヤラレタ」ト云フノハ君ノ処カ」トノ御尋ネテアリマシタカ私ノ方デハ別ニ何モ異状ハ無カツタモノデスカラ「否違ヒマス夫レデハ田端ノ方デハ無カラウカ」ト云フ事ニナツテ早速田端変電所ノ方ヘ電話ヲ掛ケテ聞イテミマシタラ「ヤラレタ」ト云フ返事デシタノデ若シヤト思ヒマシテ調ベテ見マシタラ三十分毎ニ記録ヲ取ル事ニナツテ居ルノガ出テ居リマセンノデポンプ室ニ行ツテ見マシタラポンプハ止ツテ居テ三個ノスイツチハ敲キ毀サレテ居リマシタ

文　デハ間モナク発見シタノダネ

岡　ソウデ御座イマス

才　尾久変電所ノ配電区域ハドノ辺デスカ

岡　市内電車線全部ニ仝ジク電燈線ト京成電車等デス

文　其ノ頃ドノ位送電シテ居リマシタカ
岡　三万キロ位ダッタト思ヒマス
文　全部デハドノ位出セマスカ
岡　四万五千キロデス
文　デハ配電ニ関シテハ何等ノ故障モ起ラナカッタノデスネ
岡　起リマセンデシタ
文　手榴弾ヲ庭デ発見シタノデスネ　爆発ハ
岡　発見シマシタガ爆発シテ居リマセンデシタ
文　其ノ外ニハ何カ発見シナカッタデスカ
岡　釘切リ一挺ニ炊事用ノ手袋等デス
此時花井弁護人起ッテ証人ニ向ヒ
花　何時間置キニ見廻リマスカ
岡　三十分置キデス

花　ポンプ室ハ
岡　一時間置キデス
オ　デハ御苦労デシタモウ宜敷ウ御座イマス
右ヲ以テ裁判長ハ岡田松一ニ對スル証人調ベヲ終リ
弁護人席ニ向ツテ
オ　弁護人ノ方デ別ニ異議ガ無ケレバ此ノ程度デ一時休
憩致シマス十時十分カラ開廷致シマス
右ノ如クニシテ裁判長ハ一時休憩ヲ宣シ退廷ス時ニ午前
九時五十五分
斯クシテ午前十時十分豫定通リ再開サレムトシタレ共喚
問中ノ証人不参ニ付不得已其侭引續キ休憩トナリ
午後一時五分再開東電鳩ケ谷変電所従業員近藤
友治ノ証人調ベニ入ル冒頭ニ於ケル訊問要領前記ノ通リ
オ　証人ハ昭和七年五月十五日ハ矢張リ鳩ケ谷変電

所ニ勤メテ居リマシタネ

近 其ノ日ハ午後カラ出勤シマシタ

オ 夫レデハ當日ノ襲撃ノ模様ハ

近 午後七時三十一分頃突然大キナ音ガシマシタ[illegible]線ニ異状ハ無カッタカ否カラ調ベマシタガ別ニ異状ハ認メマセンデシタ

夫レカラ何時モ約一時間置キニ見廻ルモノデスカラ二十分程シテカラポンプ室ニ行ッテ見マシタラポンプハ止ッテスイッチモ切レテ居リマシタノデ屹度外部カラノ仕業ダト思ヒマシタノデ早速署ノ方ヘ電話ヲ掛ケマシタラ直グニ出張シテ来テ調ベテ頂キマシタ其ノ内ニ東京ノ本店カラ電話デ方々ノ変電所ガ襲撃サレタカラト云フ事ヲ知ラセテ参リマスシ尚ラヂオノ臨時ニュースデ首相ガ殺サレタ事ヲ知リマシテ翌朝迄厳重警戒致シマシタ

オ　ポンプ室ヲ襲撃サレテモーターハ止ツタノデスカ

近　ソウデ御座イマス四臺ノ内二臺ガスイツチヲ切ラレテ止ツテ居リマシタ

オ　其ノ結果配電ニ就テノ故障ハ無カツタノデスカ

近　別ニ故障ハアリマセンデシタ

オ　大キナ音ガシタトヰフガ其ノ結果ハ建築物等ニ被害ハ無カツタノデスカ

近　建築物トシテハ殆ンド被害ハアリマセンデシタ

キ　何カ破片等ハ発見シマセンデシタカ

近　手榴彈ノ破片トメートルヲ敲キ毀シタ斧ヲ発見シマシタ外翌日ニナツテレーンコートヲ発見シマシタ夫レ丈ケデシタ

オ　其ノ日ノ配電ノ量ハドノ位デシタ

近　今一寸ハツキリ記憶シテ居リマセン

オ　デハ平時ハドノ位デスカ

近　十五万キロワットデスガ当時ハ五六万キロワットダッタカト思ヒマス

オ　送電区域ハドンナモノデス

近　ハッキリトハ判リマセンガ東京横浜ヲ包ンダ相当広範囲ナモノデス

オ　要スルニ襲撃ハ受ケタケレ共送電ニハ何等支障ハ受ケナカッタト云フノデスネ

近　ソウデアリマス

キ　何カ弁護人ハ御質問ハアリマセンカ

亀山弁ゴ人　事変後検事局カラカ何処カラカ調ベラレタ時ニ証人ハ横須賀喜久雄ノ名ヲ聞カレタ相デスカドンナ事ヲ御聴ニナッタデセウカ

近　私モ当日御伴シタ一人デシタガポンプ室ヲ終ッテ出ル時折角持ッテ来タ爆弾ダカラ何モ目的ハ無クシテ抛ッタト云フ様ナ話シ聞キマシタ

亀　邪魔ニナルカラ抛ッテ置コウト云フ様ナ話デスネ

近、ソウ云フ風ニ聞キマシタ

オ　空襲ウ御座イマス　遅レテ終ヘマシタ　御帰リニナッテヨウ御
座イマス　御苦労デシタ

左シ以テ近衛文麿ニ対スル証人調べヲ終了シ引続キ直チニ
國民同盟所属代議士風見章ノ証人調べニ移ル冒頭ニ
於ケル諸訊問ノ要領前会様ニシテ型ノ如ク進ムデ本質的
訊問ニ入ル。

オ、間違ヒノナイ証言ヲ願ヒ度イ　先ヅ尋ネタイコトハ証人
ト橘トノ交際関係及愛郷会並愛郷塾トノ関係等
デスガドンナ工合ニナッテ居リマスカ、

風、私ガ橘君ト知リ合ッタノハ昭和三年ト思ヒマスガ其ノ以前カラ
橘君ハ水戸ノ茨城新聞ニ農村問題ニ就テ寄稿中
デアリマシタシ私モ茨城新聞トハ特殊ナ関係ガアリマシ

タカラ知ッテハ居リマシタガ直接知ッタノハ昭和三年デ其ノ後ハ水戸ニ行ッテハ尋ネテ行ッタリ来タリシテ居リマシタ

其ノ後昭和五年ト思ヒマスガ橘君ハ深ク考ヘル処ガアッテ農村青年ヲ薫陶シテ見タイト云フ希望ガアルコトヲ知リ私モ大イニ同感ダッタシ自ラ進ンデモ実現スルコトヲ望ンデ居リマシタノデ愈々着手スルコトニナリマシタ時ニ資金ガ少シ足リナイトイフコトデシタノデ私ハ進ンデ先輩友人等ニ相談シテ多分千五百円カヲ作ッテ進呈シテ橘君ノ事業ヲ援助シタリ致シマシタ

オ　デハ愛郷会設立ノ趣旨、目的及昭和六年十月頃迄ニ於ケル動静ニ就イテ訊ネタイガ

凡　愛郷塾ノ発会式ニハ私モ出席致シマシタガ橘君ハ非常ニ輝シイ気持ヲ以テ事業ニ励ンデ居リ塾生モ亦熱心ニ働イテ勉強シテ居リマシタノデ私モ非常ニ喜ンデ見レナラ日夜ノ

将来ハ為メニ大イニ力ニナル大丈夫ダト思ッテ居リマシタ

オ　後藤、林ニモ後援シテ居リマシタネ

風　特ニ後援トカ云フ程デハアリマセンガ橘君ト同郷デスカラ。

オ　橘ハ茨城県下ヲ講演シテ歩イタ様ダガ成績ハドンナ風デシタ

風　縣当局ハ橘君ノ行動ニ対シテ弾圧スルト云フ事ヲ聞キマシタノデ私ハ当時ノ牛山知事ニ会ヒマシテ氏ノ誤解ナルコトヲ説キ両同道シテ愛郷塾ニ行ッテ話シタコトモアリマシタガ橘君ノ講演ヲ聞イテハ非常ナル熱意ニ動カサレテ何レモ深イ印象ヲ与ヘテ居タコトヲ信シテ居リマス。

オ　デハ塾生ニ対シテハドンナ影響ヲ与ヘマシタ、

風　後ニ残ッテ居ル塾生達ニ会ッテ見マシテモ引続キ一生懸命ニヤッテ行カウト云フ気持デ真ニ涙グマシク努力ヲ続ケツヽアルコトヲ見マシテモ橘君ガ青年達ニ与ヘタ薫陶

ノカノ偉大デアルコトハ言過ヒ無イト思ヒマス

キ、夫レガ一般農民ニ対シテハ

凡、橘君ガ愛郷塾創立ニ際シ私ハ当時民政党代議士デ
シタガ農村問題ノ改善ハ遅レハ簡単ニハ行カヌ遅レテ実
現センガ為ニハ橘君ノ愛郷塾ヲ援助シテ行ク方ガ早
道ダト思ッタ経デスカラ一般農民モソウ云フ風ニ印象ツケラ
レタコトダロウト思ヒマス 何モ知ラヌ者ニハ判リマスマイガ私
ノ先輩等ノ内ニモ橘君トハ未ダ一面識モ無カッタニモ不拘橘
君ノ為メニハ金モ出シテヤロウト云フ人モアッタ位デスカラ、

キ、橘ノ勢力デ茨城県下デ代議士ニ三名県会議員六七名
ハ出ス地盤ガアルト云フコトヲ云フ人ガアル様ダガ其ノ通リデスカ

凡、地盤ト申シマシテハ少シ語弊ガアリマスガ地方デハ少シ社会的
ニ働キマスト直グニ役ノ人ハ代議士ニデモ出ルノデハナイカト云フ
風ニ考ヘラレル傾向ガアリマスガ橘君ノ場合ハソンナ考ヘハ微

塵モアリマセンデシタ
仆併橋君ガ理想選挙デモシテ出タトスレバ当選数ハ集メタダロウト思ヒマス 先頃モ県下ノ或ル選挙ニ当郷会ノ同志ガ立候補シマシタガ殆ンド当選圏内ニ入ル程ノ得票ガアッタ位デスカラ

オ、夫レニ就テ焼餅ヲ焼ク人ガアッタト云フコトデスガ如何デシタ

爪、焼餅ト云フノデハ無クテモ色々ト心配スル人ガアルモノデアリマシテ夫レニハ必ラズ圧迫ガアッタモノデス 私ノ経験カラ申シマシテモ当局ノ圧迫ガアッタロウト思ヒマス

オ、或人ハ橋ト当局ハ深イ交際ガアッタ様ダガ橋ハ破壊ヲ為ヨウスル様ナ人物デハ無イト云フコトヲ申ス人モアルガドウ考ヘラレマスカ、

爪、私ニハ橋君ノ場合ニ於テハ破壊ヲ為等考ヘラレモセヌ事デアリマス、

才　橘ハ大地主義兄弟主義勤労主義デ進ンデ行ッタコトハ
間違ヒアリマセンネ、

凡　間違ヒアリマセン

才　國民共同体皇道國家建設論モ間違ヒアリマセンネ、

凡　間違ヒアリマセン私ハ橘君ノ考ヘナリヤッテ居ルコトニ就イ
テハ熟知シテ居リマシタノデ改メテ質ス必要モアリマセンデシタガ
橘君ノ考ヘヲ以テスレバ皇道國家建設ハ信ジテ居リマス

才　デハ昭和七年五月ニ到リ我國ノ政治、外交ガ行キ詰リ切
ッテ居ルカラ到底今迄ノ手段デハ打開出来ナイ状態ダト
云フコトヲ橘ハ言ッテ居タト云フガ貴下ノ考ヘハドウデシタ、

凡　非常ニ重大ナル問題デスカラ十分具体的ニ申上ゲマスガ
農林省ノ統計カラ見マシテモ農村ノ負債額ハ政府ノ統計
ニ表レテ居ル数字ヨリ以上デアルコトハ明白ナル事実デアリ
マス、是レガ農民ノ生活ヲ圧迫シテ居ルノデス　農産物ノ物

価ハ下ッテモ農民ノ負担ハ些トモ軽減サレナイノデアリマス
各農村ニ於テモ古島大キナ負債ガアリマシテ何レモ農
工銀行其他カラ ---- 以下省略

借リテ居リマス、統計ニ依レバ是等農村ノ負債額ハ全部的ニ約四十億円トナツテ居リマスガ私ガ杉浦君等ト共ニ或其道ノ人ニ就テ尋ネタ處ニヨリマスト実際ハ七十億円ダラウト云フ事デス、如斯状態ヲ此儘放任シテ置イタラドウナルカ、政府モ議會モ何トモシテ呉レナイトナレバ一体ドウナルダラウカト心配スルノハ誰レモ同ジデアリマス、日本ノ政党政治ハ英国流ヲ採ツテ居ルノデアリマスガ英國ノ政党政治ガ既ニ駄目ダト云フ事ハ四囲ノ状勢カラ一致シタ見解デスカラ日本ノ政党政治モ必然的ニソウナル事ハ亦當然デナケレバナリマセン、其結果挙國一致内閣ニヨツテ政治ヲ取ラウト云フ事ニナリマシテ私共ハソレヲ唱導シタモノデス、処ガ政党トイフ殺ノ中ニ這入ツテ終ヘバソウデハアリマセンガ各個人ノ立場ニ於

テハ是ニ反對スル者ハ一人モナカツタノデアリマス、現
ニ大臣ノ要職ニ在ル民政黨ノ某重鎮ノ如キモソ
ウ云フ意見デアツタ程デ一般政治家ハ皆ソウ考
ヘテ居タノデアリマス、處ガ三年前ノ此意見モ犬養
内閣ガ出來インフレ政策ハ採ツテモチツトモ実行
サレマセンデシタカラ是ニ因ツテ一般農民ガ政黨ヲ
信頼セヌ樣ニナリマシタノハ當然ト云ハネバナリマセ
ンガソレニモ不拘政党者達ハソウハ云ハナイデ今尚
信頼ガアレバコソ是々ノ選挙デハ何万票取ツタデ
ハナイカノ何十名當選シタデハナイカノト云フノデアリ
マスガ斯リトモ良心アル政治家デアツタラ大イニ
反省セザルベカラザル次第ト申サネバナリマセン

オ
デハ橋ノ家庭ニ於ケル状況ハドンナ風デス

風
ヘナ何オカニナラレル橋本ノオ母サン、林ノオ母サン

徳次郎君等夫妻ニ子供サン等ノ一族ガ彼ノ邸内ニ一劃ヲ為シテ住ンデ居ラレル事ガ現在ノ日本ニ於ケル奇蹟ト申シテモ良カラウト思フノデアリマス、共ニ愛シ合ヒ共ニ讓リ合ツテ生活シテ行クトニフ空氣ノ中ニ橋君ガ斗ハウトスルナラバソレハ罷對家族ノ為ニ斗フベキ人物ダツタト信ズルノデアリマス、

オ　弁護人カラ何カ御尋ネニナル事ハアリマセンカ

裁判長ハ右ノ如ク弁護人称ヘ質問ノ如何ヲ問ヘバ最初ニ亀山弁護人起ツテ証人ニ向ヒ

亀　家庭ノ事ニ就イテ一寸御尋ネ致シマスガ橋ノ奥サンハ目下健康ヲ害シテ居ラレルトニフ事デスガ証人ハ御存ジアリマセンカ

問　橋君ガ満州ニ行ツタリ塾生ガ警察ニ引ツ張ラレ

タリスルニ至ツタ結果奥サンハ勝手元カラ何カラ一切一人デヤツテ行カネバナラナカツタ結果、過労ノ為此夏頃ハ一時健康ヲ害サレタ様デシタが現在デハソレ程心配スル程デハナイト信ジマス

亀　ソレカラ後藤氏ノ家庭ノ状況等ハ御存ジデハアリマセンカ

鳳　後藤君ハ満洲行キノ後デ識リ合ツタ仲デアリマスが其後父君ヤ其友人等ト会ツテ色々話シ聞キマス処ニヨレバ兄弟孫ニ女ノ姉妹等トノ仲ヨク愛情ノ濃ヤカナ話ヲ聞キマシテヨクモヤツテ行ケルモノダト感心サセラレル程デス、

亀　此点デハ相当ノ円満家デアツテ此様ニモ忠勤ヲ働ク様ナ親人かツタトユフ事デスが御聴キニナリマセンカ

風　詳シクハ知リマセンガ其知人ニ聞キマスレバ非常ニ堅実ナ政治家ラシクナイ政治家ダト云ッテ居リマス

亀　本問題ニ関シ尋ネタイガ本件前後ニ於ケル政界一通リノ状勢ハ判リマシタガ当時ノ政府ノ政治方針カラ見マスルト如何ニモ商工ニ偏重シテ農民ハ虐ゲラレテ居タ事ハ御承知ノ事ダラウト思ヒマスカラソレ述ベテ頂キ度イ

風　承知致シマシタ、農民ハ永イ間未ダ曽テ一度モ恵マレタ事ハナカッタモノデアリマス、政治的維新以来一般国民ハ解放サレタト申シマシテモ尚且商工業者様ノ待遇ハ受ケナカッタ事ハ事実デアリマス、農民ハ常ニ苦シメラレ通シデアルノガ定石ダッタノデアリマス、最近農民農村問題ガ真剣ニ研究サレル様ニナッテ参リマシタノハ五・一五事件以来ノ事デアリ

マス、

毫金解禁以後ニ於ケル農民窮迫ノ状態、中小商工業者ノバタバタ破産シタ状態モ細カデナクテモ宜シウ御座イマスカラ此ノ尋ネ致シタイト思ヒマスガ

風既ニ橘君カラモ申述ベラレタ事ト思ヒマスガ浜口内閣ガ金解禁ニ這入ラウトシタ頃ニハ世界的ニ資本主義ハ行キ詰リ切ッテ居テ為替関係ハ正ニ混乱ノ域ニ這入ラントスル状勢ニ在ッタノデアリマス當時私ハ一日井上蔵相ニ会ッテ其事ヲ話シタ事ガ有リマシタガ井上サンハ僕ニ対シテ「君ハ赤イカラダラウ」等ト云ッテ冗談許リデ云ヒ紛ラシテ終ッテ居マシタガ暫クスル内ニ段々ト失業者ハ増加スル農産物價ハ低下スルガ負担ハ減ラナイカラ農民ハ益々困窮ノドン底ニ追込マレル様ナ感ジデア

アッタラウト思ヒマス、是ニ就イテ一ツノ面白イ実例ガアリマスガ茨城縣下ニ　篤農家ガアリマシテ小作人達ニ対シテ百性ハ働キ方ガ足ラヌカラ貧乏ニナルノダ、ドシドシ働ケ働キサヘスレバ屹度儲カル、豚ヲ飼ヘ、鶏ヲ飼ヘ！資本ハ俺ガ出シテヤルカラト云ッテ元手ヲ貸シテ盛ンニ奨励シタモノダカラ小作人達ハ喜ンデ早速其ノ通リ実行シテ一生懸命ニナッテ働イタ処ガ翌年ニナッテ見タラ豚モ鶏モ値ガ安クナッテ終ッテ元ヲカケテ一生懸命デ働イテ見タ結果ガ却ッテ損ヲシテ反対ニ負債ガ出来タ始末ヲ見ルニ至ッタノデス、其ノ処デ小作人達ガ其ノ篤農家ノ処ヘ何トシタモノダラウカト云ッテ相談ニ行ッタノニ対シテ其ノ篤農家ノ曰クニハ「モウオ前達モ働クナ、食フ丈食ッテリャ其代リ小作料モイラヌ」ト云ッタト

云フ実話ガアリマス ソレ程働イテモ食ヘナイノガ農村ノ現状デアリマス、近頃ハインフレ〱ト云ツテ好況ニモ景気ノ良サソウナ掛声ハ聞キマスガ決シテ良クナルモノデハナイノデス

亀 ソレカラ一寸聞キ難イカモ知レマセンガ金解禁再禁止ノ當時政党首領ト財閥トガ結託シ其結果財閥ハ非常ニ儲ケタ代リ一般農民ハ益々困窮スル様ニナツタト云フ事ヲ御判リナレバ承リ度イ

風 矢張リインフレ政策デスガ當時ソンナ噂ガ非常ニトンダモノデシタ、私モ當時反對党側カラ三十万弗位貰ツタ等ト新聞ニ書カレタリナンカシテ宣傳サレタモノデシタガ勿論私ハ ― (以下次頁)

鍾一文貰ッテハ居リマセン右併事ノ真相ハ大蔵省迄
リノ秘密帳簿デモ見ナイ限リ私ニハ判リマセンカラ
ソ等ノ事實ガ無イトハ勿論断言ハ出来ナイト思ヒマス

亀 其ノ結果小学校ニ欠食児童ガ出タ事ハ如何デアツタカ
御聞キニナラナケレバ宜敷ウ御座イマスガ一一

冈 夫レハ聞キマシタ農村ノ給料不拂問題ト併合シテ起ッ
タ問題デス当時私モ宅々ニ調査シテ廻リマシタガ表
面ハ兎角実際ノ裏面ニハ不拂ガ非常ニ多カツタノデアリ
マス農民ハ今迄税金ハ納メナケレバ監獄行キダト覚悟
シテ真正直ニ納メテ来タ程ノ者ガ納メルコトガ出来ズ納
メナイ位デスカラ其ノ前ニ既ニ欠食児童ガ出ルノハ当然ダ
ト思ヒマス

亀 デハ政党政治ノ行詰リノ結果農村青年達ニ思想ノ悪化
ヲ来ス様ナ惧ガ無カツタカドウカニ就テハ如何考ヘマシ

タカ御尋ネ致シタイ

風　政治家自身デサヘ政党政治ニ慊ラズ思ッテ居タ程デスカラ況ンヤ農村青年達ガ悪化サセラレルノハ當然ダト思ヒマス

亀　次ハ五、一五事件訊問ノ結果トシテ社会ニ現レタ現象ニ政党国民各農村ニ於テ非常ニ真剣ニ農村問題ヲ研究スル様ニナッタコトハ御承知ダロウトハ思ヒマスカ夫レテ来リ度イ

風　五、一五事件以来當面ノ問題ハ満洲問題ノ解決農村問題ニ就テノ請願運動等デアリマシタシ私モ當時請願運動ヲ取扱ッタ一人デアリマスガ或ル日農民自治協議会ノ請願ニ對シテ一應協議シタイカラ明日九時ニ集ッテ呉レト云ッテ置イタコトガアリマシタガ農村ノ通例トシテ何時モ時間通リニ集ルト云フ様ナコトハ殆ンド期待サレナイ

處デアルニモ不拘其ノ時ニ依ッテ旅ニ時局ニ満員デ遂ニハ政党ヲ超越シテ血判シヨウト迄云フ者ガ出ルニ到ッタ程デシタ処ガ最初夫レ程ノ熱モ段々ト冷メテ行ッテ愈々提案ナトナレバ政民ノ党派ニ依ッテ互ヒニ反対スルト云フエ合デ仲々簡単ニハ行カナクナッテ終フ様ナ有様デアリマス現ニ政民両党ノ協力内閣デアリ乍ラモ夫レト仝様ナ有様デスカラ何処迄行クカハ大ナル疑問ダト思ヒマス、

亀 兎ニ角五・一五事件ノ結果一般カソウ云フ気運ニ導カレタコトハ認メラレマスネ

凡 夫レハ政治的ノミナラズ総テカ俺達ガ真面目ニ考ヘネバナラヌゾート云フ様ナ考ヘガ捲キ起ッテ来タコトハ事実デアリマス

亀 宜敷ウ御座イマス、良ク判リマシタ

以上ニテ亀山弁護人復席スレバ柏木弁護人代ッテ起ッ

テ証人ニ向ヒ

柏、橘ト証人トノ関係ニ就イテ先刻承リマシタガ橘ガ事件ノ襲撃参加ニ決意ノ時期ト其際見聞サレタコトガアッタラ此ノ際伺ッテ置キタイト思ヒマスガ

凡　一寸尋ネマスガ橘君ガ五・一五ニ関係スル者ヘ何時頃持ッタカト云フコトヲ——デシヨウカ

柏　ソウデス

凡　夫レナラバ些トモ見聞ハアリマセン

柏、デハ襲撃ノ結果政界財界特権階級等一般社会ニ如何ナル影響ガアッタカニ就テ今少シ詳細ニ伺ヒ度イト思ヒマスガ

凡　私知ッテマシタ極メテ範囲ノ広イモノデスカラ私ノ方デ適当加減シテ申上ゲマスガ政民両党ガ五・一五事件以来政党政治ニ還セ等トハ公伴ニモ出サズニ協力内閣ヲ作ッテ

612

終ッタコトハ最早日本ノ状勢ハ政党政治ヲ必要トシナクナッタコトヲ認識セシメタコトニ外ナラヌノデアリマス假例一時的ニセヨ政党政治ハ消ヘテ終ッタモノデス動クトモ五一五事件ニ因ッテ何事ヲモ為ス能ハザル無力無用ノ物ニナッテ終ッタモノデアルコトヲ痛感スルノデアリマス

此ノ時被告席ニ在リタル小室カセハ顔面蒼白トナリ脳貧血症状ヲ呈シ来リタレバ看守等ニ擁セラレツツ静カニ退廷ス（午后二時三十分）

嫌乍ラモ挙国内閣ヲ作ラネバナラナカッタノハ五一五事件ノ影響ニ外ナラヌノデアリマス

然ルニ又近頃ハ政党更生ノ運動ガ起リ掛ケタリソウカト思ヘバ山形県等デハ既成政党解消運動等モ起リツツアル様ナ現状デス

先日モ議長官舎デ農村問題ニ対シテ協議ガアリマシテ

私モ出席致シマシタガ其ノ席上私ハインチキ斉藤内閣打倒政民両党解消スベシト云フ論ヲ主張シマシタラ同縣選出ノ代議士デ私ノ親友デアル石井三郎君ノ如キハ卓ヲ敲イテ讃成シタ程デアリマス

免ニ角オ互ノカヲ以テシテハ何事ヲモ為シ得ナイノデアルト云フ点ニ立到ツテ居ルノデアリマスカラ其ノ辺ヲ考ヘニナレバ判ロウト思ヒマス

先達ハ三井ガ三千万円三菱ハ大シ程金ガ無イト云フノデ五万円出ストカデ新聞ニ出テ居リマシタガ此ノ挙ニ対シテハ従来ナラバ一般國民ガ口ヲ揃ヘテ賞讃シタモノデスガ今回ハ其ノ様ナ例ニ拠ラズシテ「出スベキ者ガ当然出シテモ未ダ出シ足ラナイ位ノ考ヘヲ以テ見ルニ到リマシタノハ凡ソ國民ガドンナ考ヘヲ持ツニ到ツタカ想像ガツクコトダロウト思ヒマス

役人ノ如キモ相當変ッタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ縣ノ如キニ於テサヘ既成政党ヲ背景トシタ者ハ却ッテ反撥サレルニ到ッタ様ナ風ガアリ警察官如キモ今迄ノ様ナ政党本意ノ様ナ警察官デハ無クナッテ来テ公正ナル官吏ノ一員デ無ケレバナラヌト云フ様ナ傾向ガ張ッテ来テ居ルノデアリマス

右終レバ更ニ稲川弁護人起ッテ証人ニ向ヒ

稲　橘ガ大船カラ東京ニ護送ノ途中其ノ護送ノ憲兵ガ橘ノ態度ニ非常ニ感激サレタト云フコトガアッタ相デスガ其ノ事ヲ承リ度イト思ヒマスカ

答　私ハ當時着替ヘヲ持ッテ迎ヘニ行ッタノデアリマスガ時ノ憲兵ノ一将校デアリマスガ橘ハ不逞ノ思想ヲ持ッテ居ルトノ噂モアッタガ自分ハ夫レガ根モ葉モ無イコトヲ認メタトノ話デシタ

ソコデ夫レハドウシテカト尋ネマシタラ自動車デ二重橋前ヲ通ル際ニ非常ニ敬虔ナル態度ヲ以テ皇居ヲ拝サレタ態度ニハ誠ニ敬服サセラレタ我々デサヘ何時モ通ウツカリシテ居ラ通ルノガ普通デアルノニ実ニ感激サセラレタ折リカアツタラ弁護人諸君ニモ其ノコトヲ傳ヘテ呉レトノ御話ガアリマシタ

之ニ前川弁護人起ッテ今橘証人ニ向ヒ

前　先程来ノ思想的ニ轉換ノ必要ナルコトト橘ノ考ヘテ居ルコトガ尚現在必要カドウカニ就イテ御尋ネ致シマスガ

凡　私モ農村問題ハ前カラ考ヘテ居リマシタガ机ノ上ノ議論ニ過ギナカッタノデアリマス

我ガ日本ハ特殊ナル国体デアル以上之ニ来ルヘキ農村ノ姿ハ橘君ガ唱導スル様ナ協同生活的ナモノガ生レテ来ネバナラヌト思フノデアリマシテ此ノ点橘君ト同感デアリマス

経済組織ニ就テハ欧洲大戦後各国ニ於テ自国ノ商工業ヲ保護スルニ到リマシテ従来ノ様ナ「商品ニ国境ナシ」ト云フ言葉ハ適用サレナクナルニ到リ国際金融組織並ニ資本主義ハ行詰リヲ生ズルニ到ッタノデアリマス、茲ニ於テカ所謂合理化運動ノ提唱トナリ而シテ全面的世界ノ大恐慌トナッタノデアリマス如斯ニシテ否応ナシニ農村ヲ圧迫スル様ニ立到ッタノデアリマス

（以下次葉）

615

前　モウ一点橘ガ其ノ考ヘヲ持ツテ夫レヲ合法的ニ粉ケニ或ハ雑誌ニ或ハ講演等ニ運動シテ居タ事実アリヤ否御存ジナラバ伺ヒ度イト思ヒマス

風　昨年ノ農民自治協議會モ三ケ條ノ請願ヲ合法的ニ議會ニ提出シタモノデアリ橘君ガ従来カラノ考ヘカラシテモ出来ルコトナラ合法的ニヤロウト云フ考ヘデアツタコトハ想像スルニ難クナイト思ヒマス

右ニテ終レバ更ニ池田弁護人起ツテ今証人ニ向ヒ

池　証人ト橘愛郷塾等トノ師弟ノ関係ニ就イテ御伺ヒ致シ度イ

風　夫レハ恰モ兄弟的ノ関係デアリマシテ食ルモ住ルモ皆一緒ニヤリ謂ハバ寺小屋式トモ云フベキ関係ニアツタト云ヒ得マセウ

池　次ニ現代ニ於ケル教育制度ノ改革特ニ人格教育ノ

凡　必要ナル点ヲ御伺ヒシタイト思ヒマス第一
ノ御同感デスガ現在ノ教育制度ハソウデハナイカラ私ハ
橘君ノ愛郷塾ニ対シテハ一生懸命デ後援シテ居タ次デス

右終レバ代ツテ前井弁護人起ツテ証人ニ向ヒ

前　後藤圀彦ガ俸給ノ全部ヲ欠食児童達ニ与ヘテ居タ
コトヲ御承知ナラバ御伺ヒシタイト思ヒマスガ

凡　夫レハ私モ本人ノ当法廷ニ於ケル陳述ノ前ニ一寸聞キ
マシタガ夫レハ隠徳デアリマスケレ共県下デハ一部デハ信
ズル者ガアルモ判ラヌガアレハ宣伝ダトミル者モアリマス下併
夫レハ為メニセムトスル者ノ逆宣傳デマデハ疑フ者ハ一人モアル
マイト信ジマス

前　ソンナコトヲ聞カレタコトガアリマスガ－

凡　アリマス

前　夫レデハヨロシウ御座イマス

最後ニ星野弁護人起ッテ証人ニ向ヒ

星 一ニ点御尋ネ致シマスガ犠牲ノ本件ニ対スル輿論カ認識不足ナリトノ議論、今一ツハ現在ノ農村ニ改善アリヤ否ヤニ就イテ証人ノ御考ヘヲ承リ度イト思ヒマスガ

オ 今点永イ間述ベマシタノガ其ノ点デハアリマセンカ

風 才判長ノ今言ハレル通リデスガ農村問題ノ改善ニ対シテハ非常ニ込入ッタ六ヶ敷イ問題デアリマシテ私ノ述ベントスル前ハ聞イタ人ニ依ッテハ全面的ニ五一五事件肯定スル様ニナリマスカラ私ノ言フヿノ代ノ程度デ御諒解ヲ得タイト思フノデアリマス

オ デハ宜敷ウ御座イマス御苦労デシタ

オ 次回ハ十一月廿九日正九時ニ開廷致シマス

右ノ如クニシテ午后三時三五分無事閉廷ス

右及申(通)報候也

特高秘第五六七六號

昭和八年十一月二十一日

警視總監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側公判状況ニ關スル件

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於テ標記第二十三回公判ハ本日午前九時十五分開廷午後零時二十五分閉廷セルガ其ノ状況左記ノ如クニシテ何等事故無之

（第二十三報）

記

二三四

警保 8.12.1 金 保 号

一、日　時　十一月二十一日　自午前九時十五分
　　　　　　　　　　　　　　至午後零時二十五分

一、場　所　前報ニ仝ジ

一、係判検事　木内検事欠席ノ外前報ニ仝ジ

一、被告人　橘孝三郎外十九名全部出席

一、辯護人（本日出席者）

奥山八郎　若井孝太郎　亀山要　柏木五百次郎

金石一雄　石川浅　池田讓太郎　岩松孝雄

星野民雄　横田隼雄　深作貞治　藤沼光

小松崎信　遠藤榮三郎　宮下巖　關口正吉

鈴木多人　江橋治郎　木村好太郎　前川盈一郎

宇都宮良久　植田亥之吉　以上二十二名

一、傍聴人

一般傍聴人　三四名

特別　仝　六名

3家族傍聴人　　四名

一特別傍聴人中ニモ特記スベキ知名ノ士ナシ

一、法廷内ノ状況

八、午前八時四十分被告橘孝三郎以下十九名構内假監到着内外ノ警戒従前ノ通リ

2、午前九時十二分裁判長以下各判事入廷スレバ之ト前後シテ各弁護人並ニ新聞記者等入廷シ、九時十五分各被告ノ入廷ヲ待ツテ傍聴人入廷着席シ直チニ開廷トナル

3開廷ニ先立チ速記者ヲ附スル事並ニ各被告ニメモ鉛筆ヲ交付スル事従前ノ通リ

4、開廷劈頭先ツ奥山弁護人ヨリ茨城縣眞壁郡外農民数百名ノ減刑歎願書ノ提出取次アリ之レニ續イテ深作弁護人ヨリハ埼玉縣

ノ鈴木藤一郎並ニ石川清重外数百名農民
等ノ減刑歎願書ノ提出取次ヲ終リ
か裁判長ハ證人トシテ本日召喚セル長野縣東
筑摩郡波多村農業和合恒男當三十三年ヲ
證人席ニ起タセ本籍住所、身分職業氏名年
令等ヲ訊ミタル後被告橘孝三郎外十九名ニ
係ル爆発物取締罰則違反殺人及殺人未遂事
件ノ證人トシテ召喚シタル旨ヲ述ヘ次イデ被
告ト親族或ハ雇傭同居関係ニ非ラザル事ヲ
確メタル後満場起立ノ上證人タル宣誓ヲナス
6 本日ハ前回ニ引續キ證人調トシテ和合恒男ノ
訊問ヲ以テ本件ニ對スル審理ハ終了シ尚本證
人トシテ許可サレテ居タ陸軍砲兵少尉上宇都
茂（池松武志同期生）ハ公務ノ為メ出ラレズト

テ却下トナレリ
右証人調終ツテ奥山、柏木、宮下、深作各弁護人ヨリ証人和合ト質疑應答アリ後江橋弁護人ヨリ更ニ証人トシテ徳富猪一郎、大井一哲、稲村隆一並ニ再ビ井上日召ノ四名ヲ召喚セラレ度シト屢々其ノ理由ヲ述ベテ申請セルガ何レモ必要認メラレズトシテ却下トナリ終リニ深作弁護人ヨリハ橘ノ著書七冊（内一冊検事局へ）又奥山弁護人ヨリハ茨城新聞ヲ証拠トシテ提出アリテ結審トナリ次回ハ来ル三十日午前九時ヨリ検事ノ論告アル旨ヲ宣シテ午後零時二十五分無事閉廷トナレリ

一、公判状況

裁証人ニ聴ツガ昭和五、六、七年ニ於ケル長野縣

13

證

下ノ農村及農民ノ疲弊状態負債ノ方面小作農地主、農業組織、農民ノ日常生活状態、地方ノ納税状態等ニ就テ

私ハ學者デハアリマセンカラ今般ノ事ヲ申上ゲラレマセンガ私ガヤッタ事ト直接シタ事ヲ申スニ過ギマセンガ昭和五年自分自身デ作ッタ野菜物ヲ松本市ヘ一日中足ヲ棒ニシテ歩イテモ其ノ売上ゲハ漸ク一日二圓内外デ或ハ前ノ年ヨリ良ク出来テモ其ノ売上ゲハ少ナイノデアリマス

又繭ニシテモ高イ時ノ三分ノ一位デ家ヘ帰ッテ農業経営ガ悪イカ考ヘテ算盤ヲ採ッテ見テモ何ウシテモ足リ無イ、借金モ有ルカラ食物ヲ減ラシテモト思ヒマシタガ?私ハ百

性ハ尊イ亦働イテ居レバ良イト思ヒマシ
タケレ共ソレデナクテ私共ノ親類ト云ハズ
百性全般ハ非常ニ苦シイノデアリマス
其ノ後信濃銀行ハ支拂停止トナツテ個人ヤ
組合ハ大混乱ヲ来タシ殊ニ農村金融機關
タル産業組合ハ縣下デ百五十九アリマスガ
四百三十万圓餘ノ借財ガアリマス
負債ノ方面カラ云ヒマスト借金シテ居ナ
イ者ハ無ク大小ノ財産又ハ信用ノ程度ニ應
ジテ一杯ニ借リテ居ル始末デ勧業銀行カラ
借リテモ利息ハ一割一歩デ實際ハ夫レ以上
ニナルガ元金ト利息ヲ拂フ心算デ一町歩平
均シテ畑ハ大部分デスガ桑ヲ作ツテ蚕ヲ飼ツ
テ一年収入五百圓ニ少シ欠ケル位利息スラ拂

ヘナイノデアリマス、矢張大キイノハ借金デ種々手段デ對抗シヨート思ヒマシタガ出来ナイノデアリマス

夫レカラ松本市ニ税金ノ滞納デ病人ノ寝テ困ッテ居ル家ヲ強制執行シタリ、デスカラ伊那地方ノ商人モ強制執行ノ物ハ買ハナイ事ニシテ居リマス

病人ガアッテモ醫者ニ掛レナイト云フ事ハ何處ノ部落ニモアッテ銀行ノ強制執行サヘモ思フ様ニヤレナイ有様デス

此ノ負債ガ何故返セナカッタカト云フニ大正八、九年カラ十四年ノ繭ガ一メ目十圓以上シマシタガ昭和五年カラハドット下ッテ来タカラデ前ニハ一メ目十圓シタ時デ千圓ノ借金モ百メ

目デ済ミマシタガ下ッテカラハ一メ目二圓五十
錢ノ繭デハ四百メ無ケレバ返セナイノデス
大体長野縣丈ガ特殊ノ事情ト申シマシテモ
之レハ國民全体ニ及ボス影響ノアルモノト思
ヒマス
資貨ノ生産スル農民ノ苦シイ事ハ自作、小作
農ノ方面ニ見テモ同様デアリマシテ又地主
對小作問題デアリマスガ小作料ハ土地ノ五割
カラ五割五歩デ五斗ノ俵デ五斗三外取ラレ
マス
農家ノ收入ノ割合ヨリ賃銀ガ掛ルノデ物品ハ
資貨以上ノ賣買價格ガ見ハレマス、忍マし
シイ斯ウ云フ關係ニアッテモ忍バネバ返ッテ
苦シイノデ自作ヤ地主モ同ジ様非常ナ苦

シイ目ヲ受ケル譯デス
然シ何ント云ッテモ一番困ルノハ矢張税金デアッテ細カイ数字ハ覚ヘテ居リマセンデスガ昭和四年以前ノ處デ農家ノ收入ノ二割カラ二割五分取ラレルノデシタガ夫レカラハ四割前後ニ上リマシタ
地主ノ方ハ矢張生産物ノ値下リニ依ッテ收入ノ八割モ負擔ニ掛ル地主ハ農民ノ中堅ト云ヒマスガ小作農以上ニ苦シイノデアリマス
地主ガ斯ウ云フ惨メナ有様デスカラ此ノ結果ハ一方デハ自治体ガ困乱ニ陥入ル譯デス
北信ニモ小作争議ガ有ッタノデシタガ小作人カラ取立テル物ガ無イ為メニ地主モ小作農モ争議モ出来ナイデ小作人ノ云フ様ニシテル

為メ地主モ小作農モ皆苦シイノデアリマス
農村ガ苦シク為ツテ来タノハ都會ノ犠牲ニ
為ツタノデ今迄ノ農業経営組織ガ間違ツ
タノデ改善シ加ヘナケレバナラナイト思ヒマ
ス
信州ハ大体米ト繭ヲ生産シテ此ノ不況ノ打
撃ヲ受ケルト云フノデ或ハ豚ヲ飼ヒ又ハ鶏ヲ
飼ツテ居マシタガ少数者デ一般的デハアリ
マセンガ鶏卵ガ一貫目私ハ忘レ勝デ判キリ
覚ヘマセンガ昭和四年頃迄ハ四圓五拾銭ト
思ヒマシタガ五年六年カラハ二圓以下仲買
ノ買フ値段ハ一圓二十銭ト云フ有様デ返ツ
テ損ニナル
夫レカラ豚ガ良イト云フノデ六年頃十五掛

ト聞イテ飼ッテ七年春ノ賣ル時ニハ六掛五掛一時ハ三掛半、甚シイノハ五拾銭附ケテ貰ッタト云フ話モアリマス。

又北信ノ須坂ハ北ノ方デ或ル村デハ可愛イ豚ノ子ヲ千曲川ニ投込ンデ居ルト云フ風ニ聞イテ居リマスガ之レモ一般ニ及ボス影響ハ大キナモノデアリマス

又農業組織ヲ改メタ丈デハ何ウニモナラナイ其處デ共同デ生産物ヲ賣出シテモ之レヲ救フ事ハ出来ナイ結局國全体カラ改メナケレバナリマセン今迄ノ様ニ賣物許リ行ッテハト自給ノ方面モ考ヘマスガ昔ノ様ニ孤立的ナ組織ハ勿論良クナイシ結局政治的ノ改革ト相俟ッテ為スベキデアリマス

農民ノ日常生活ハ北信方面ノ陳情ニ依ッテ見テモ判ル通リ家族ガ食事ヲスルニモ笑ッテ食フ事ハ無ク只黙々トシテ食ベ合ッテ居マス學校ノ子供ハ欠食スル者ガ多ク又食ベテモ自分ノ食物ヲ見ラレルノガ厭ヤデ子供モ他ノ子供ト一緒ニ食ベル事ハ厭ヤダト云ヒマス夫レカラ松本ノ町ノ若イ者デ相談部ヘ困ッテ来ル者ノ多イノニ驚キマス地方ニヨリ一縣々々ノ苦シミカラ納税ノ滞納モアリマセウガ長野縣ノ縣税ガ百萬圓、町村税デ五十五萬圓村民ノ六割マデ滞納シ滞納者ノ方ガ幅ガキク有様救貧給モ拂ヘナイ此ノ六、七年ハ三百七十ケ村デ二百ケ村ハ完全ニ拂ヘナイデ氣ノ毒デ米ヤ味噌ヲ持ッ

義證

テ来テ間借リスル戸数割スラ出スノガ苦シイカラ救貧トシテ安心シテ従事スル事ガ出来ナイ有様デ斯ウ云フ事ハ私ガ直接ニ目ニ觸レタ事デス

自治体ノ苦シカツタ時低利資金トシテ自作農創設資金ノ融通シ受ケ其ノ借リデ三百圓ノ土地ヲ買フナラバ半分ハ自作農創設資金ノ高利ニ追ハル之ガ自治体ノ数字ノ上ニ大キイモノデアリマス

其ノ次ニ打開策トシテ政友會トカ民政党或ヒハ無産政党ノ資状ニ就テ

既成政党ト申シテモ地方ノ既成政党トシテハ判キリシタ對策ノ立ツタ事ハ氣ガ付キマセンガ何處ノ村デモ金ノ有ル者ガ先ニ

立ッテ居ル借金ト重イ税金デ自分ノ苦シサニ陳情ニ出タリシテ中央ノ政党ト結ビ既成政党ニ對シテハ農村ノ低利資金デヤロートシテ既成政党ニ關係スル無理ガアリマス

組合ニセヨソー云フ困リキッタ事デハ打開スル邪魔ニナル百性ラシイ人ガ村ノ中心ニ為ッテ居タナラバ良カッタガ

無産党ハ小作争議ガ中心ニ勢力ヲ持ッテ居タケレドモ前ニ申シタ様ニ地主對小作農モ一把ニ為ッテ何處ヘカ揉取サレタノデ無意党ハ見ラレナイ政策ヲ立テタリシタガ此ノ不況ニ為ッテカラハ無産党ニ入ッテ居タ者モ休党シテ様子ヲ見ル状態デアリマス

北信ノ不況對策會ト云フノガアリマシテ組合ノ人達ガ陳情ニ出ル或ハ村會ガ陳情ニ、所ガ或ル代議士ヲ訪ネルト云ッテ出タガ會ヘズ其侭村ヘ帰ッタモット猛烈ナ運動ヲ起シテモ全ク微力デアリマス

農民協會ハ全國ニモアリマスガ矢張長野縣モアリマシテ農民運動ニ見切リヲ付ケタ人達デ年ガ三十位ノ村デハ政治経済教育ノ三柏子揃ッタ人ヲ昭和六年ノ秋縣會ノ選擧ニ候補者ヲ立テ既成政党ノ選擧デ猛烈ニ演説會ヲ開イテ四、五百票ト云フ所迄行ッタノデスガ斯云フ選擧費用迄十錢二十錢ト出シ會ッテ二百圓三百圓ト集ッテ豫算ニシタガ誰モホントニシナイ無名

ノ青年ヲ立テ様トシタ事ニ依ツテモ如何ニ
苦シキカヲ見ラレマス
夫レカラ五、一五事件ノ前ニ茨城縣久慈郡カ
ラ立候補シタ齋藤勇之助ト云フ人ヲ愛
鄉會ノ人達ト力ヲ併セテ私モ、二、三回行
ツテ應援シ齋藤ト云フ人ハ百性シテ黒ク
為ツテ働イテ居ル人デアリマス其處ヘ「以数
タリトモ侮ラズ御盡力願上候」ト云フ手紙
ガ来テ居タ
「忌憚ナク御努力ヲ乞フ」ト返事ヲ出シタノ
デ一日々々ト候補者ノ人氣ガ出テ町ノ八割ガ
此方ノ味方デアリマシタガ二、三日ト云フ處デ
運動者ノ多キ為メト云フ理由デ愛鄉會ノ
人達十八人モ檢束サレタノデ開票ノ結果

負ケト為リマシタケレ共政民併セテ六千七百票ニ對シ無産六千三百二十票ト云フ數字ヲ示シタ、五、一五事件ノ有ツタ影響デ農民ノ奮起、淡根ノ農民ノ熱烈ノ氣ガ窺ハレマス

一方昨年春農民協會カラ請願ニ出サウトシテ他府縣ニモアリマシタガ四月集ツタ三ケ條ノ請願デ五月ニ出ス其ノ用意中五、一五事件突發シテ警察モ請願ニ壓迫シテマシタガ夫レデモ長野デ二万五千全國デ三万五千アツテ忙シイ田植ヲスル中ニモ運動シタ為メ農村ヲシテ臨時議會ヲ開カレルト云フノデ農民モ感心シテ見タノデスガ既成政党ノ案ニ見兼ネテ再ビ請願スル樣ニ為ツタ。

其ノ時ハ丁度農家ハ農蚕ノ忙ハシイ中ニモ前ノ二倍ニ上ル第一回ハ十六件デ第二回ハ三十件以上ニ至ル私共委員トシテ感激シタ事ハ出シ合ッタ一錢宛ノ貧者ノ一燈ニ依ッテ足リタノデアルケレ共其ノ結果ハ思フ様ニ行カナカッタノデス

八月ノ議會ハ五、一五事件ノ結果ト見ラレルカ農村救濟ノ土木事件ハ起ル秋蚕ノ値ハ出タガ農民ノ懐ニ入ルノハ三割五分位入ルノミ莫大ノ土木事業ノ金ハ結局農民ガ出ス事ニナルト思ヘバ心ガ暗クナル

モー一ツハ八月ノ請願運動、ニ對シテハ全國カラ電報一ツテ立ツト私ノ處ヘ行ッテ来マシタ

此ノ事件ニ對シテ最初ハ新聞シ讀ンデハ詰シ